

てんこん いんよう あそ りようすい ほとり いた たまたまむめいじん あ しか
 天根、殷陽に遊び、蓼水のの上に至りて、適々無名人に遭う。而し
 こ と いわ てんか おさ こ と おめいじんいわ
 て焉れに問いて曰く、天下を為むることを請い問わんと。無名人曰
 さ なんじ ひじん なん と ふよ わ まさ
 く、去れ、汝は鄙人なり。何ぞ問うことの不豫なる。予れ方將に
 ぞうぶつしゃ にん な あ すなわ ま か もうびよう とり の
 造物者と人と為らんとす。厭かば則ち又た夫の莽眇の鳥に乗り
 もつ ろくきよく そと い しか む かゆう きよう あそ こうろう や
 て、以て六極の外に出で、而して無何有の郷に遊び、壙垆の野に
 お なんじま なん いとま てんか おさ もつ わ こころ
 処らん。汝又た何の暇ありて天下を治むることを以て予れの心
 うご な ま かさ と むめいじんいわ なんじ こころ
 を感かすを為すやと。又た復ねて問う。無名人曰く、汝、心を
 たん あそ き ばく あ もの じねん したが し い
 淡に遊ばしめ、氣を漠に合わせ、物の自然に順いて私を容るること
 すなわ てんかおさ
 なければ、而ち天下治まらんと。

【大体の意味内容】

てんこん いんよう あそ りようすい かわ たむろ
 天根が殷陽の地に遊んで蓼水の川のほとりを屯していたら、たまたま無名人と出会った。
 そこでこれに問いかけて、「天下を治めるにはどうしたらよいですか」といった。無名人は
 こた さ まえ やつ ぶすい しつもん くち わたし ぞうぶつしゃ
 答えた、「去れ、お前はくだらん奴だ。なんという無粋な質問を口にするのか。私は造物者
 なかま もの あ そうげん べと ひろ おおとり せ の
 と仲間になろうとしている者だ。それに飽きたら、あの草原の如き広やかな巨鳥の背に乗
 って、天と地と、東西南北の六極からも外れた宇宙へと罷り出でるだろう。そうして、何物
 そんざい あそ こくう まえ てん ね
 も存在しないところに遊び、虚空にさらされておるだろう。お前は『天の根』でありなが
 ら、いったい何の暇を弄ぶようにして『天下を治めよう』などという俗なネタで私の歡心
 か はんしん
 を買おうとしているのだ。」「そういう方だからこそ、あなたならこの世界をどのように安
 たいら おさ き むめいじん こた まえ へいろう
 らけく平らけく治められるのかをお聞きしたいのです」。無名人は答えた、「お前は、心

を恬淡^{てんたん}として欲^{よく}のない境地^{きょうち}に遊ばせ、お前^{まえ}の元氣^{げんき}を空漠^{くうばく}静寂^{せいじやく}の天氣^{てんき}に調和^{ちやうわ}させなさい。
万物^{ばんぶつ}の自然法則^{しぜんほうそく}に従^{したが}って、私欲^{しよく}や私心^{ししん}をさしはさむようなことをしなければ、天下^{てんか}にあり
とあらゆるものが、その本来^{ほんらい}あるべき姿^{すがた}に治まる^{おさ}のである。」

「天根」つまり天の根っこ、「世界の始まり」が、へらへらと陽気に絡んでくるキャラとなり、
「無名人」つまり名という、存在^{しゆじ}の象徴^{しめし}を無くした「終わったもの」が、聖人の境地に達しつつ
もやや短気なキャラとなって、やりとりする、ちよつとマンガの様な場面です。

この本の著者「莊子」は、よく「老莊思想」と評価されるほど「老子」の考え方に近く、どちらかという王侯為政者のコンサルタント志望の「孔子」をからかう傾向があります。今の場面でもおそろくは、「無名人」とは老子のことであり、「天根」は孔子なのかもしれません。

そう考えると、一般によく言われるように、莊子は單純に孔子をバカにして、老子に百パーセント敬服している、とばかりは言えないようにも見えます。

ここで天根は、天下を治めようという俗っぽい欲望を持った存在の様でいて、実は「無名人」

の真骨頂をつまぐ引き出す「調整者」^{フヤシビテター}

の役割も果たしています。「無名人」は常識の域をはるかに

超えた自由な精神世界に遊べる悟達者^{しだつじや}ですが、それをことさらにひけらかそうとするお茶目な

性格の持ち主であることも垣間見^{かいまみ}せています。どっちもどっち、という、冷めた視線も、莊子は

持っているのでしょう。聖俗どちらの生きざまも一長一短あって、0点が百点かといった評価の仕方はできない、莊子自身の生きざまも、他人から見れば大ばら吹きで誇大妄想家と見られることもあるのを、自覚していたのだらうと思います。存念を熱く語りながらも自らを茶化せるこの余裕が、いいですね。

自分の役割を懸命に演じながらも、そんな自分をどこか離れたところから冷静に観察する、そんなメンタリティーを、「離見^{りけん}の見^{けん}」といいます。授業中に、まるで幽体離脱したみたいにボーっとする人がいますが、それとは違います。今自分の行為行動に集中しつつも、そんな自分を外側から冷静に観察できていて、必要に応じて修正できる、メタ思考能力と、考えてください。

